

事業報告書

2020年4月1日 ～ 2021年3月31日

公益財団法人 藤原ナチュラルヒストリー振興財団

公益財団法人藤原ナチュラリスト振興財団
2020年度 事業報告

I. 事業の状況

1. ナチュラリストの学術研究に対する助成(定款第4条第1項第1号)【公1】

ナチュラリストの分野を動物・非動物に分け、今年度は日本国内の大学、研究施設に勤務するか、又は日本国内に居住する動物分野の研究を行っている個人又はグループに対し、研究に必要な資金を助成する。

・2021年1月22日開催の理事会において、動物学164名の申請の中から、2回の選考委員会によって選ばれた27名、総額15,191,000円を2020年度の学術研究助成者として承認した。

本助成の当年度予算額は1500万円であったが、助成金の上乗せを行い、助成総額は予算額を191,000円上回った。

なお、理事会後に、辞退者が3名出たことにより、助成金額等の検討を行い、繰り上げ候補者の中から順位1番2番の2名を繰上助成者とし、最終的に合計26名に総額15,101,000円の助成金を贈呈した。

(助成者一覧:別表1参照)

・平成29年度第26回の助成者1名について、本年度に助成者名簿から削除を行った。

この助成者については、1年の延長を認めており、2020年4月に研究成果報告書並びに決算報告書の提出予定であった。しかしながら、これらの提出が無く、財団からの再三の督促にも対応が無いため、所属機関に連絡を取ったところ、既に退職したことが判明した。このため、本人が届け出ている自宅住所宛に内容証明郵便等で正式に報告書類の提出及び助成金の返還依頼を行った。

これに対しても何らの回答も得ることが出来なかったため、検討の結果、助成者名簿から削除することとした。

なお、助成金については、法的措置を検討したが、その手続きの作業量と裁判費用等を考え併せた結果、法的な返還請求は行わないこととした。

2. 初等中等教育機関におけるナチュラリストの学習支援、並びに教員の研究活動に必要な実験器材や教材等への補助(定款第4条第1項第2号)【公1】

2020年度は、初等中等教育機関の中で、特に高等学校における生物の授業に必要な備品の購入等への補助を、日本国内の高等学校、並びに各国の日本人学校の高等部に対し行う。

補助の内容は、(A)①必要な備品の購入、②日本国内での課外活動に必要な交通費等、(B)古い生徒用顕微鏡の買換えとする。

・2021年1月22日開催の理事会において、41件(A①13件、②4件、B24件)の申請の中から、2回の選考委員会によって選ばれた7件(A①2件・②1件、B4件)、総額4,237,780円(A①103万8400円、②30万円、B289万9380円)を2020年度の高等学校助成校として承認し、各校に贈呈した。

なお、本助成の当年度予算額は400万円であったが、助成金の上乗せを行い、助成総額は予算額を237,780円上回った。

(助成校一覧:別表2参照)

3. その他この法人の目的を達成するために必要な事業(定款第4条第1項第3号)

(1)2020年度シンポジウム【公2】

2020年11月8日ナチュラリストに関する第12回シンポジウム(テーマ:音の自然史)は、国立科学博物館で開催予定であったが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、オンラインシンポジウムの形式で開催し、4名の講師による以下の講演を行い、参加者は175名であった。

- ・高梨琢磨(森林総合研究所) 「昆虫の音と振動の世界」
- ・田島木綿子(国立科学博物館) 「鯨類の音にまつわるお話」
- ・濱尾章二(国立科学博物館) 「オスが生み出す鳥の音の世界」
- ・田中隼人(葛西臨海水族園) 「微小動物カイミジンコの感覚器官とその役割」

また、同日開催予定であった第11回高校生ポスター研究発表は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より、中止とした。

(2) 2020年度東京都以外でのシンポジウム【公2】

2020年10月10日に仙台で開催予定であった、東京都以外で開催するナチュラリストに関する第3回シンポジウム(テーマ:海と地球の自然史ー変わりゆく海洋環境から海洋プラスチックごみまで地球の問題を考えるー)は、新型コロナウイルスの影響を鑑み、共催の東北大学とも相談の上、オンラインシンポジウムに形式を変更するのではなく、実際に会場を設けて参加者を受け入れる形での開催を目指すこととなり、2021年度に延期とした。

(3) 2020年度フォトコンテスト【他1】

第7回中学生・高校生フォトコンテストを、7月1日から9月30日までを応募期間として開催し、148件の応募があった。伊藤元己フォトコンテスト選考委員長の「第7回中学生・高校生フォトコンテスト選考経過報告書」を基に、11月11日に理事会を開催し、以下のとおり最優秀賞1名並びに優秀賞2名、佳作13名を決定した。(決定後、1名辞退があり、最終的に佳作は12名となった。)

最優秀賞 「雷神降臨」 白武璃子 (お茶の水女子大学附属高等学校 2年)

優秀賞 「シオヤアブの早いお昼ごはん」 三宅浩平(立教新座高等学校 2年)

「ハチドリと桜」 カプリンスキー 海(サンフランシスコ日本語補習校 中学3年)

佳 作 「I love you」 有川 颯(東京都東久留米市立南中学校 1年) 他12作品

また、一般の第12回フォトコンテストは、10月1日から11月30日までを応募期間として開催し、114件の応募があり、伊藤元己フォトコンテスト選考委員長の「第12回フォトコンテスト選考経過報告書」を基に、2021年1月22日に理事会を開催し、以下のとおり最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作8名を決定した。

最優秀賞 「奇岩の夜明け」 筒井健作

優秀賞 「石鎚山の雲海滝登り」 池田侑穂

「奇妙な雲」 北島宏亮

佳 作 「ヤコウチュウ」 今岡史士 他7作品

各フォトコンテストの受賞作品及びコメントを、当財団ホームページに掲載した。

(4) 財団設立40周年記念事業

2020年度に17団体の協力を得て、野外観察会等のイベントを開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により、予定していた8団体のイベントが中止となった。また、開催されたイベントも、Web講義等に形式変更をした上で開催されたものもあった。

なお、中止となった8団体については、2021年度に延期とし、開催ができなかった場合でも、同年度中にイベントは終了とすることとなった。

これにより、これらのイベント等の総括として予定していた冊子の作成やシンポジウムに関しては、2022年度に延期とした。

予算のうち、2020年度の各団体のイベント開催に支出した補助金は、365,644円となっている。

Ⅱ. 庶務の概要

① 役員会等に関する事項

(1) 理事会 (総理事数9名、定足数5名)

定款第44条により、電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、理事会決議があったものとみなすこととなっております。

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果	出席人数
2020/4/30 (電磁的)	1 2019年度事業報告及び附属明細書承認の件 2 2019年度収支決算書承認の件 3 定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について 4 報告事項:理事長及び常務理事より、職務執行状況報告(その他:事務局から、学術研究助成の今年度の募集に関しての相談。2020年度の各事業延期並びに中止についての報告。)	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 出席者全員了承 出席者全員了承	理事9、監事2
2020.11.11(電磁的)	1 第7回中学生・高校生フォトコンテスト受賞作品承認の件	全会一致で承認・可決	理事9、監事2
2021/1/22 (Web会議)	1 2020年度学術研究助成決定の件 2 2020年度高等学校助成決定の件 3 第12回ナチュラルヒストリーフォトコンテスト受賞者承認の件 4 学術研究助成 研究未遂行助成者の扱いについて 5 報告事項:理事長及び常務理事より、職務執行状況報告(その他:地方シンポジウム委員長より、2021年度に延期して開催予定の地方シンポジウム開催にあたっての諸事項の現状報告と後援に関する相談。財団設立40周年記念事業委員長より、2020年度の各団体のイベント開催状況等の報告等。事務局から、来年度の事業計画等の策定にあたっての方針等の確認。)	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 出席者全員了承 出席者全員了承	理事9、監事2
2021/3/11 (Web会議)	1 2021年度事業計画承認の件 2 2021年度収支予算書承認の件 3 2021年度学術研究助成並びに高等学校助成選考委員選任の件 4 理事並びに顧問 候補者選任の件 (その他:第1号事業計画の議案の際、地方シンポジウム並びに財団設立40周年記念事業の各委員長より、現状並びに今後の予定についての説明。学術研究助成選考に関して、充足率と学生優先について並びに2020年度第29回以降の助成者が研究期間延長中に日本学術振興会特別研究員に採用された場合の扱いについての意見統一のための検討。)	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 出席者全員了承	理事9、監事2

(2) 評議員会 (総評議員数10名、定足数6名)

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果	出席人数
2020/5/20(電磁的)	1 2019年度事業報告及び附属明細書承認の件 2 2019年度収支決算書承認の件 3 評議員(再任9名、新任1名)選任の件 4 報告事項:理事長及び常務理事より、職務執行状況報告(その他:事務局より、2020年度の各事業延期並びに中止についての報告)	全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 出席者全員了承 出席者全員了承	評議員10

(3)選考委員会(学術研究助成)

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
2020.6.2	1 選考委員長の選出 2 応募要領及び申請書について 3 審査の方法 4 評価の方法	矢後勝也氏(東京大学総合研究博物館助教)を委員長に選出。申請案件を各選考委員によって3つの評価項目に付き4～1の評点を記し、総合評価としてA～Dの評点を記入した評価表を作成し、これらをまとめた総合評価表を基に、選考委員会において最終決定することを承認。
2020.12.10	2020年度学術研究助成(動物学)候補者選定の件	候補者として27名総額15,191,000円を選考した。また、決定後辞退があった場合を考慮し、繰上げ候補者5名を選考した。

(4)選考委員会(高等学校助成)

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
メールによる、各項目の検討、打ち合わせ	1 選考委員長の選出 2 募集案内及び申請書について 3 審査の方法 4 評価の方法	岡幸子氏(東京都立竹早高等学校教諭)を委員長に選出。事務局より助成総額と各助成金額と助成内容(A①備品・②日本国内での課外活動に必要な交通費等の補助・B生徒用の古い顕微鏡の買換え補助の3通り)は昨年度と同様という説明がされた。申請案件を各選考委員によって、A①と②は3つの評価項目の評点(5～1点)、総合評価(A～D)、優先順位を記入した評価表を作成、またBについては備品台帳を確認の上、古いもの・地域性を考慮した上で優先順位を記入した評価表を作成し、これらをまとめた総合評価表を基に最終決定することを承認。
2020.11.30	2020年度高等学校助成候補校選定の件	候補校として6件(A①1件・②1件・B4件)と次点3件を選考した。委員会後に各候補校より見積書の提出を受け、検討を行い、次点から1校を追加で候補校とすることで選考委員の承認を得た。これにより、7件(A①2件・②1件・B4件)を候補校とし、総額は4,237,780円となった。

選考委員(学術研究助成):6名

学術分野	氏名	就任年月日	現 職	備考
動物学	矢後 勝也	2020.4.1	東京大学総合研究博物館 助教	委員長
〃	大越 健嗣	〃	東邦大学 理学部 生命圏環境科学科 教授	
〃	加藤 尚志	〃	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育学部 教授	
〃	小松 浩典	〃	国立科学博物館 動物研究部 研究主幹	
〃	黒木 真理	〃	東京大学大学院 農学生命科学研究科 助教	
〃	上田 恵介	〃	立教大学 名誉教授 (財団理事)	

選考委員(高等学校助成・旧備品助成):3名

氏 名	就任年月日	現 職	備考
岡 幸子	2020.4.1	東京都立竹早高等学校 教諭	委員長
本橋 晃	〃	雙葉中学校・高等学校 教諭	
飯塚 慎	〃	東京都立小山台高等学校 教諭	

② 職員に関する事項

(2021年3月末日現在)

職 名	常勤・非常勤	氏 名	採用年月日	担当事務	備考
職 員	常勤	藤原 基美子	1980年9月28日	事務局長	
職 員	常勤	井石(宮澤)亜紀	2015年4月1日	一般事務	

③ 許可、認可、承認、証明等に関する事項

該当なし

④ 契約に関する事項

該当なし

⑤ 寄付金に関する事項

該当なし

⑥ 内閣府公益法人(行政担当)への届出

提出年月日	届出内容
2020.6.29	2019年度 事業報告等
2020.7.3	変更の届出(評議員9名再任、評議員1名選任)
2021.3.30	2021年度 事業計画書等

<附属明細書の作成について>

上記の事業報告に関して、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定されている附属明細書により、その内容を補足すべき重要な事項はありませんので附属明細書は作成しておりません。

2020年度(第29回)学術研究助成 助成者一覧

助成金額 合計15,101,000円

[動物学] 26名

NO	氏 名	研 究 課 題	助成金
1	相原 光人	ゲノム比較による魚類透明化の遺伝基盤の解明	48万円
2	上田 るい	アマゴ・サツキマスが多様な生活史が維持される仕組みの解明：森と川の季節的な繋がりと降海多型の遺伝基盤に着目して	80万円
3	榎本 尊	捕食者・被食者の対抗的共進化が駆動する形態の多様化－オサムシとカタツムリの事例	50万円
4	大生 唯統	日本産ヒゲコガネ属甲虫-ダニ共生系の実態解明	53万円
5	小川 真由	船舶騒音が小型鯨類とその摂餌対象種の行動に与える影響評価	44万円
6	加藤 貴大	スズメにおける子の性特異的死亡が持つ生態学的機能の解明	60万円
7	木村 彰宏	温帯林の昆虫における氷期後の二次的接触がもたらす進化現象に影響を与える要因の解明	60万円
8	工藤 慎一	親の保護と卵形の相関進化：異翅亜目昆虫を用いた系統種間比較による検討	36.6万円
9	齋藤 貴子	カタユウレイボヤ自家不和合性分子の多型と自他認識	45万円
10	佐々木 瑞希	北半球におけるドブシジミ科二枚貝の移動拡散－DNAバーコード法による分類学的検討と実験生態学を用いた検証－	90万円
11	佐藤 臨	カタツムリにおける殻毛の被食防衛機能	77万円
12	袖山 文彰	トゲバネウミシダの分類学的研究－隠蔽種の検討－	52万円
13	高田 賢人	日本列島におけるサワガニの色彩多型と遺伝的多様性に関する研究	55万円
14	田谷 昌仁	アオバズクとコノハズクの繁殖適地の違いとは？－DNAと安定同位体比による食性の詳細な解析	83.3万円
15	谷尾 崇	シジミチョウ科ウラボシシジミ属の形態・分子に基づく分類学的再検討と系統地理	56万円
16	寺田 知功	鳴音を用いた鯨類の群れの新しい定義の試み	50.2万円
17	富樫 和孝	山梨県産コガタガムシ保全のための生息状況調査と生活史解明	48万円
18	長澤 竜樹	卵保護をする魚類における孵化酵素と卵膜の平行共進化の研究	36万円
19	中山 新	イカ類による墨を用いた求愛行動の獲得過程解明	68万円
20	野崎 翼	コウモリガ幼虫の巣に棲むハネカクシの生活史と系統学的背景	51万円

21	藤田 純太	雄性先熟型性転換を行う深海性直達発生エビ類の深海適応戦略と遺伝的多様性の解明	45万円
22	藤藪 千尋	魚類の多様な光受容適応をもたらすオプシン遺伝子のユニークな重複機構の解析	64万円
23	藤原 愛弓	ニホンミツバチがオオスズメバチの襲撃後に巣の周囲に塗り付ける物質に関する研究:植物等を用いたミツバチの防衛行動の解明に向けて	70万円
24	宮田(根本)真衣	ミナミキチョウにおいて同所的に存在するボルバキア感染個体と非感染個体の維持メカニズムの解明	50万円
25	屋宜 禎央	ケラチン・キチン食者を含むヒロズコガ科の種・遺伝的多様性と生態の解明	68万円
26	吉田 純輝	鳥類に特有な副舌骨の獲得進化の解明～主竜類における舌骨の進化発生学～	70万円

2020年度（第29回） 高等学校助成 助成校一覧表

【A① 備品助成】

NO	氏名・学校名	生徒数	品 名
1	田代 拓(28才) 山形県立加茂水産高等学校 全日制課程水産科	1年 0名 2年 26名 3年 35名 クラブ活動その他25名	WRAYMER(レイマー顕微鏡) 倒立型実体顕微鏡 1.AXJ-5350TPH-BF Plusセット 484,000円 2.対物マイクロメーターB1S10/100 4,950円 3.顕微鏡用カメラWRAYCAM-N0A630E 109,450円
			合計 598,400円
2	中川 和倫(61才) 愛媛大学附属高等学校 全日制課程	1年 120名 2年 120名 3年 120名 クラブ活動その他20名	1.オートクレーブ ケニス ST201 ラボ用 433,400円 運送料 6,600円
			合計 440,000円
			A① 合計 1,038,400円

【A② 課外活動に必要な交通費等の補助】

NO	氏名・学校名	生徒数	品 名	
1	橋本 悟(57才) 浦和実業学園高等学校 普通課程	高校1・2年生の生物部員 各合宿で10名程度 合宿総参加者20名前後	1.宿泊費	
			・南伊豆2泊3日	8000円×20:
			・群馬片品村2泊3日	7000円×20:
				300,000円
			合計	300,000円
			A② 合計	300,000円

【B 生徒用顕微鏡の買換え補助】

NO	氏名・学校名	生徒数	品 名
1	谷全 尚樹(40才) 静岡県立焼津水産高等学校 食品科学科	1年 40名 2年 40名 3年 40名	1.顕微鏡 (Vixen) ミクロナビS-800 :21台 549,780円
			合計 549,780円
2	濱本 泰治(63才) 大阪府立日根野高等学校 全日制課程	1年 0名 2年 238名 3年 100名	1.生物顕微鏡 (ケニス) E5-600 :10台 607,200円
			合計 607,200円
3	関根 由里恵(31才) 東京都立東久留米総合高等学校 全日制課程	1年 199名 2年 65名 3年 40名	1.生徒用生物顕微鏡 (SHIMADZU) BA81-6SP :12台 900,900円
			合計 900,900円
4	大森 加奈子(33才) 北海道室蘭東翔高等学校 全日制課程	1年 160名 2年 190名 3年 40名	1.生物顕微鏡 (ケニス) NJL-400SM-CN :17台 841,500円
			合計 841,500円
			B 合計 2,899,380円

総 合 計	4,237,780円
-------	------------